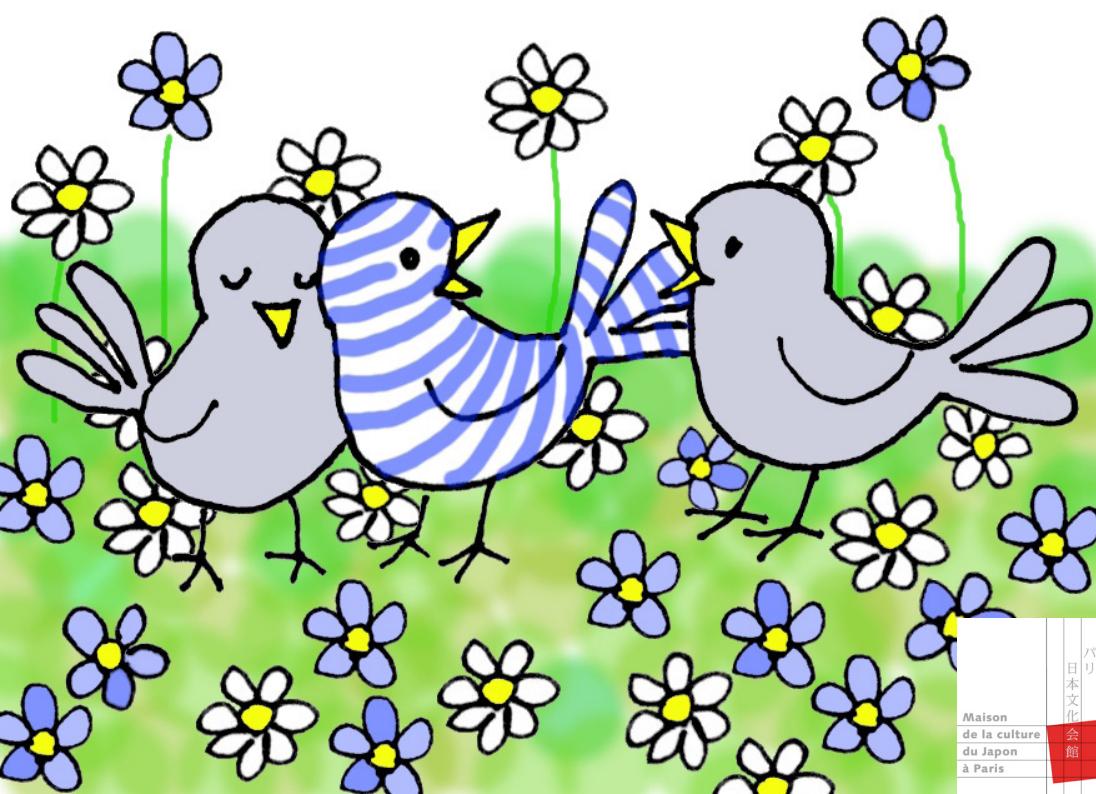


しましまの鳥

さく
作
え
絵
なか お ゆき え
中尾 雪絵
ば ば きょう こ
馬場 恭子



とり
しましまの鳥

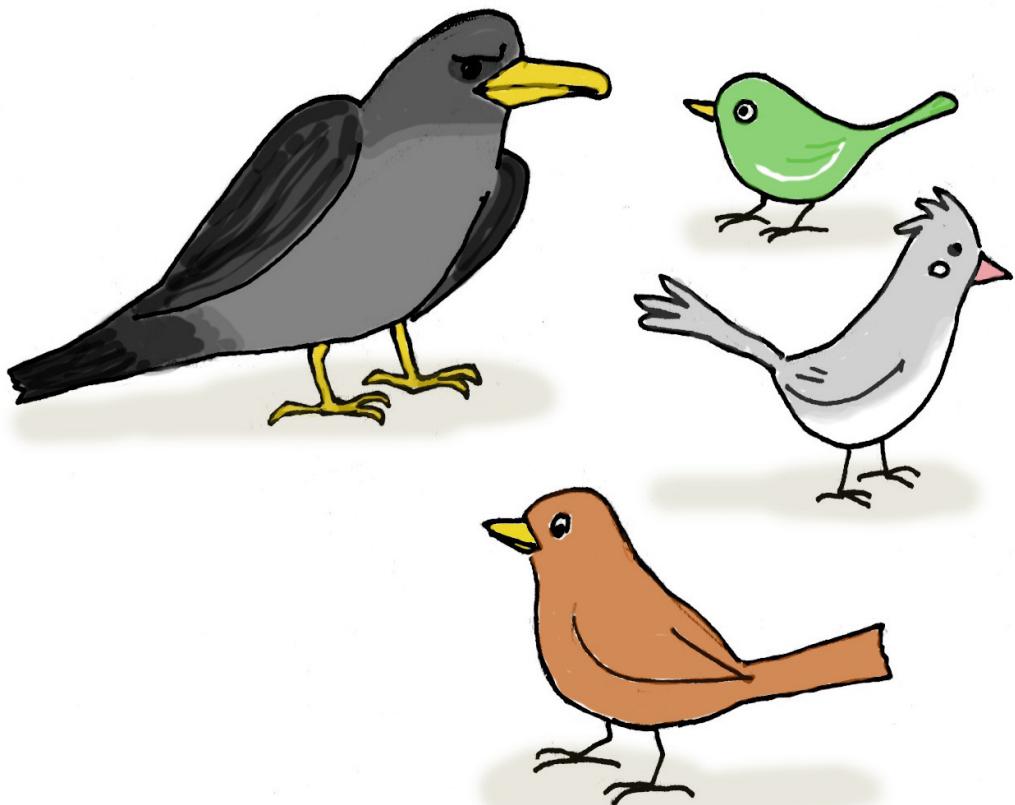
さく なか お ゆき え
作 中尾 雪絵
え ば ぱ きょう こ
繪 馬場 恭子



森の中もりなかに、
たくさんの鳥とりが
住すんでいます。

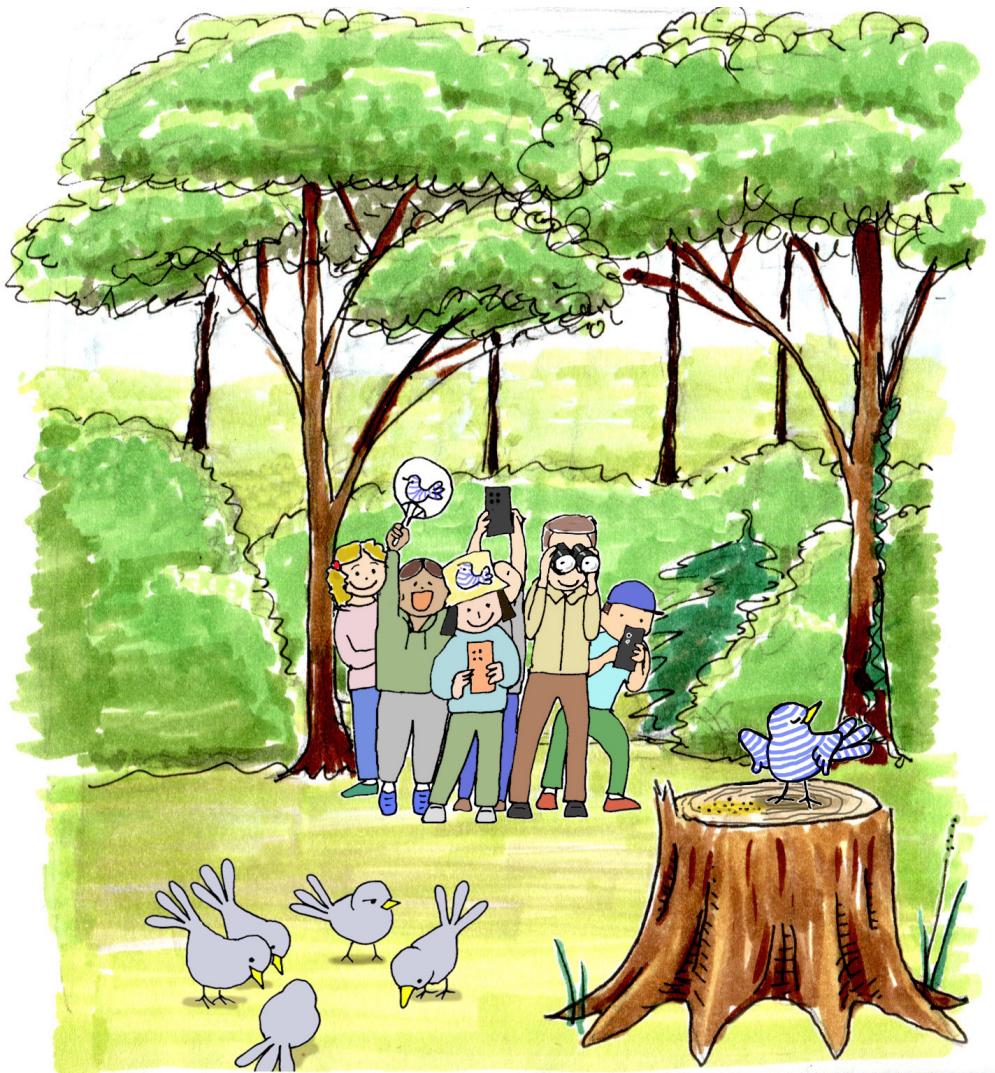
遊あそぶのが大だい好きな鳥とり…
泳およぐのが好すきな鳥とり、
足あしが長ながい鳥とり、
大きおおい鳥とり、
小ちいさい鳥とり、

みどりの鳥、
茶色の鳥、黒い鳥、
ちょっと灰色の鳥、
そして…



しまちゃんがいます。
青と白の
しましまです。





しまちゃんは、
めずらしい
しましま模様で、
小さいときから
有名でした。
ゆうめい

でも、このごろ、

ちょつと元気げんきがありません。

どうしたんだしよう。

しまちゃんには、

悩みなやみがありました。

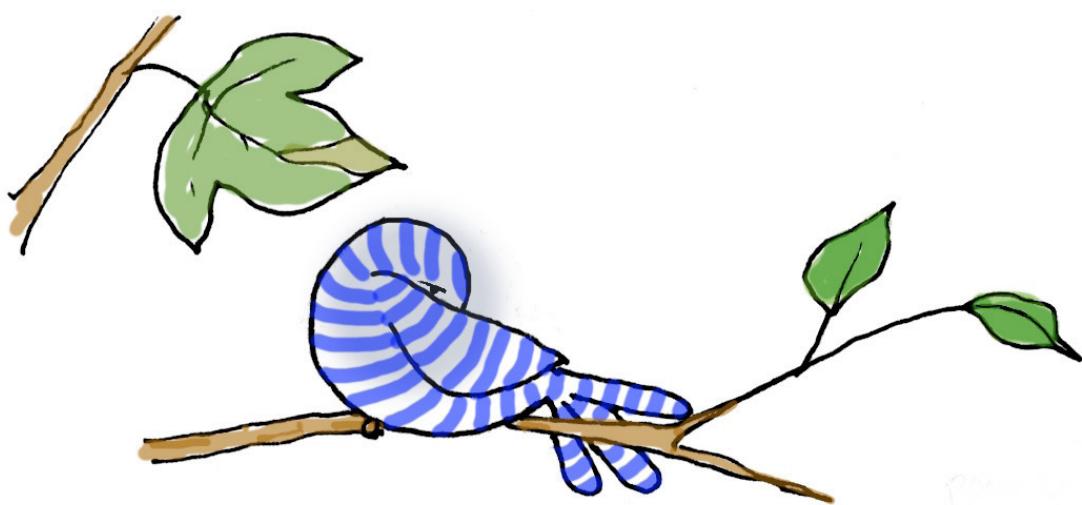
食べ物たのものを探さがしているとき、

青あおと白しろの

きれいなしましまのせいで、

他の動物ほかのどうぶつに

すぐ見つかるのです。





「ごめんね、
しまちゃん」

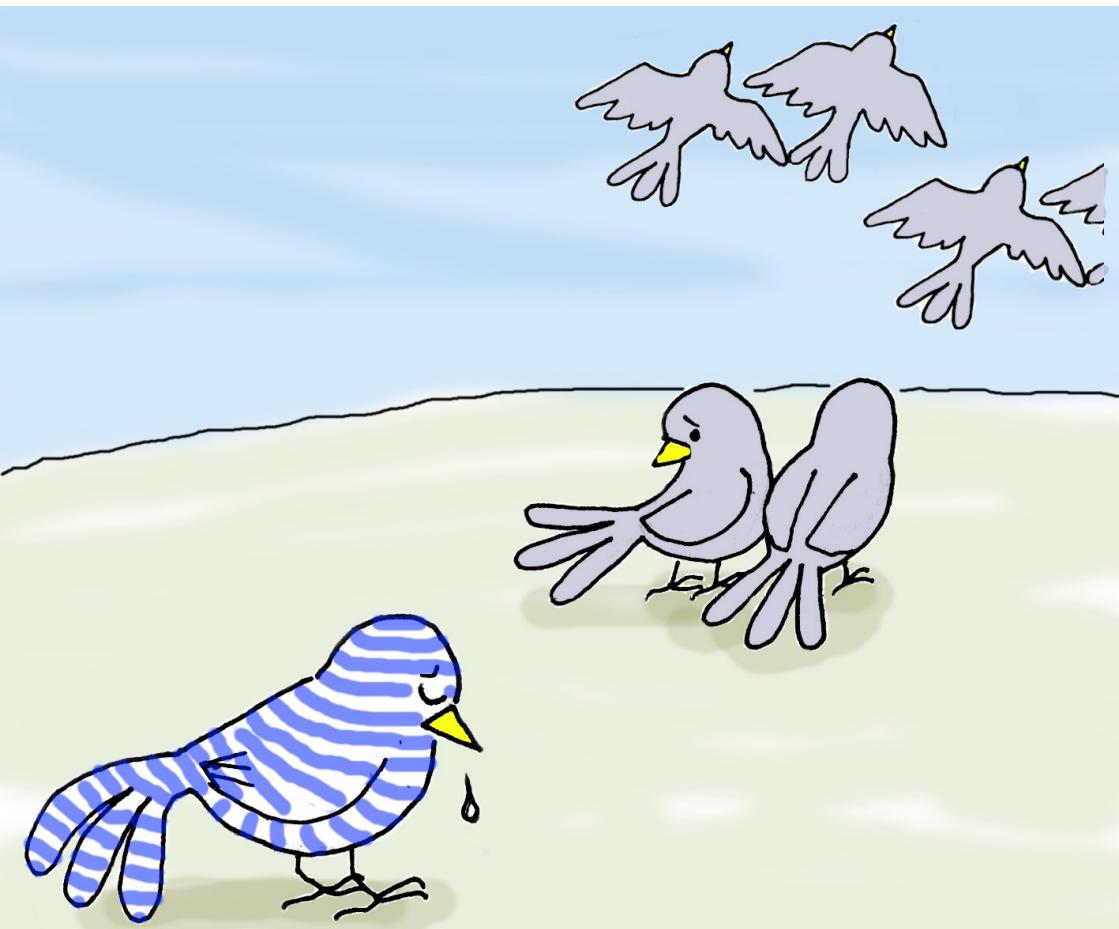
そう言つて、
他の鳥は、

しまちゃんと

いつしょに

食べ物たものをさが探すのを

やめてしましました。



しまちゃんは、
じぶん
自分のしましまが、

もう好きではありませんでした。
だから、ずっと巣の中^{なか}にいて、
ときどき食べ物^{たもの}を探^{さが}しに、
ひとりで出かけました。



みんなは心配しました。

「しまちゃんはどう?」

「どうしたんだろう?」

「しまちゃん、元気かな?」



ある日、
ひ

怖いことがありました。

しましまのせいで、

大きな動物に見つかって、

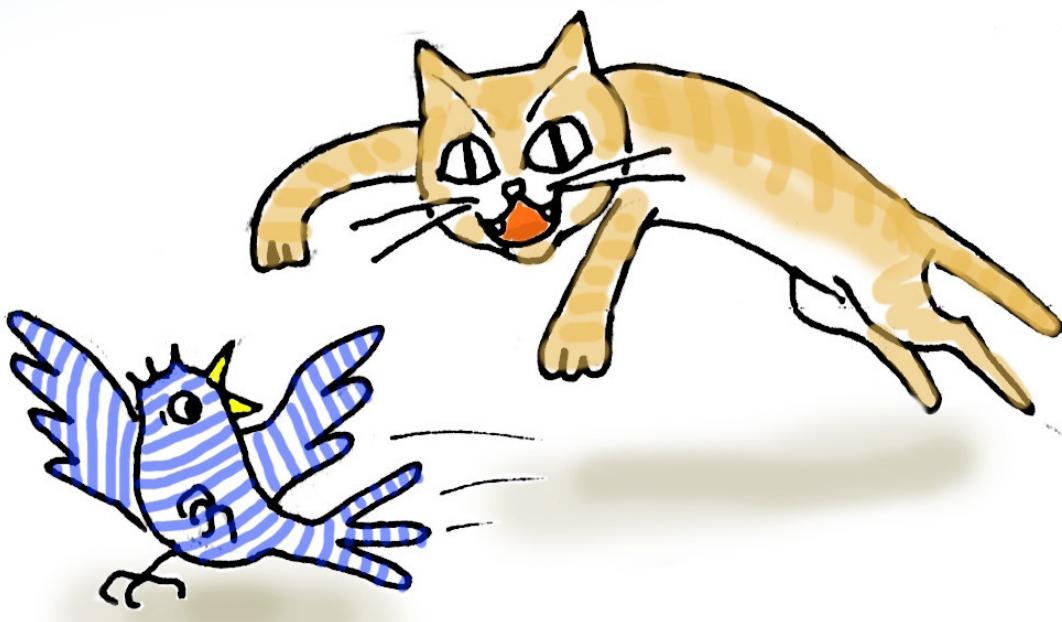
食べられそうに

なつたのです！

しまちゃんは
疲れてしましました。

「このしましま、

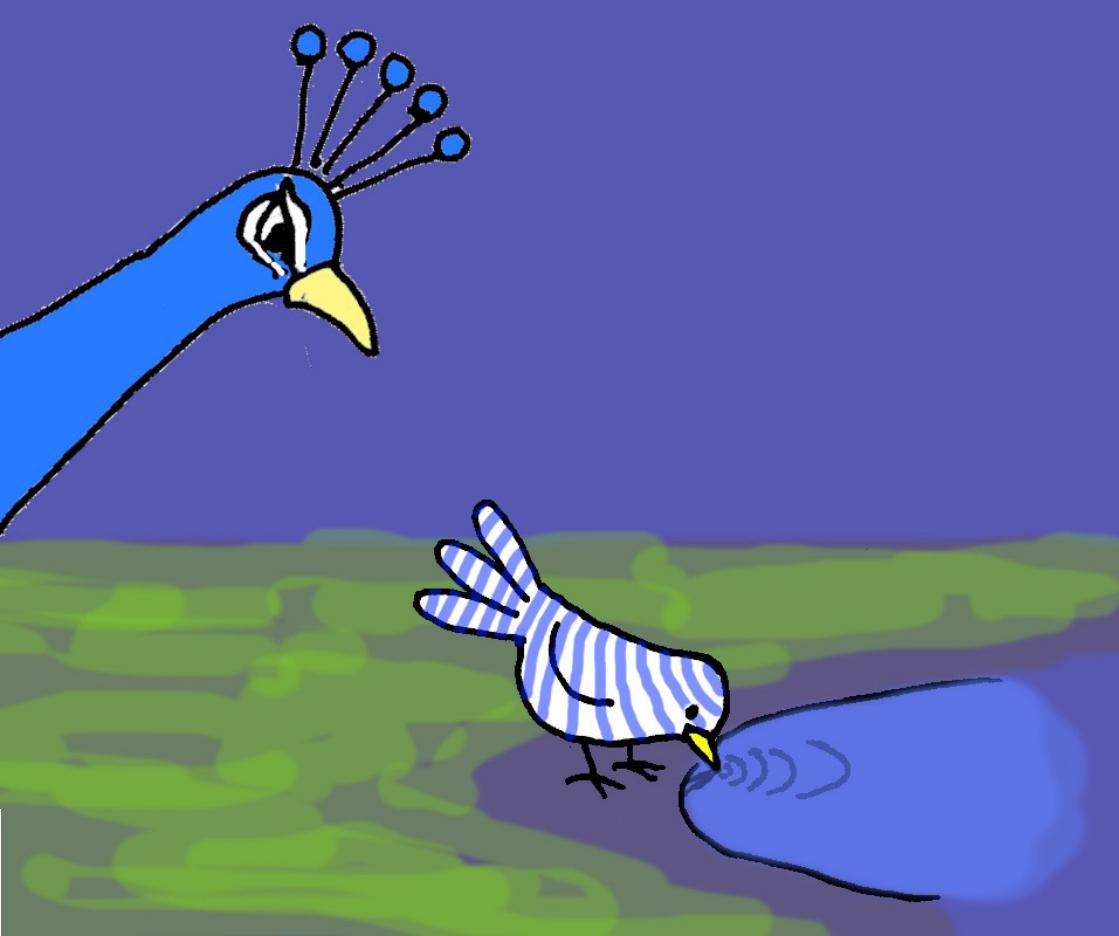
本当に大嫌いだ！」





その夜、
しまちゃんは
巣を出ました。
とても美しい夜でした。

しまちゃんは
泣きながら、
暗い空を
飛びました。



「小さな泉で、しまちゃんは、
水を飲みました。
とてもおいしい水でした。
そのとき、

「こんばんは」と、
声が聞こえました。
大きなクジャクでした。

「こんばんは、クジャクさん」

「こんな遅い時間に、

ひとりですか？」

「ええ」と、

しまちゃんは答こたえました。

「このしましまのせいで、

他の鳥といっしょに

食べ物を探すことができません。

だから、ひとりなんです」

すると、クジャクは言いました。

「わかりますよ」

そして、クジャクは羽を広げました。

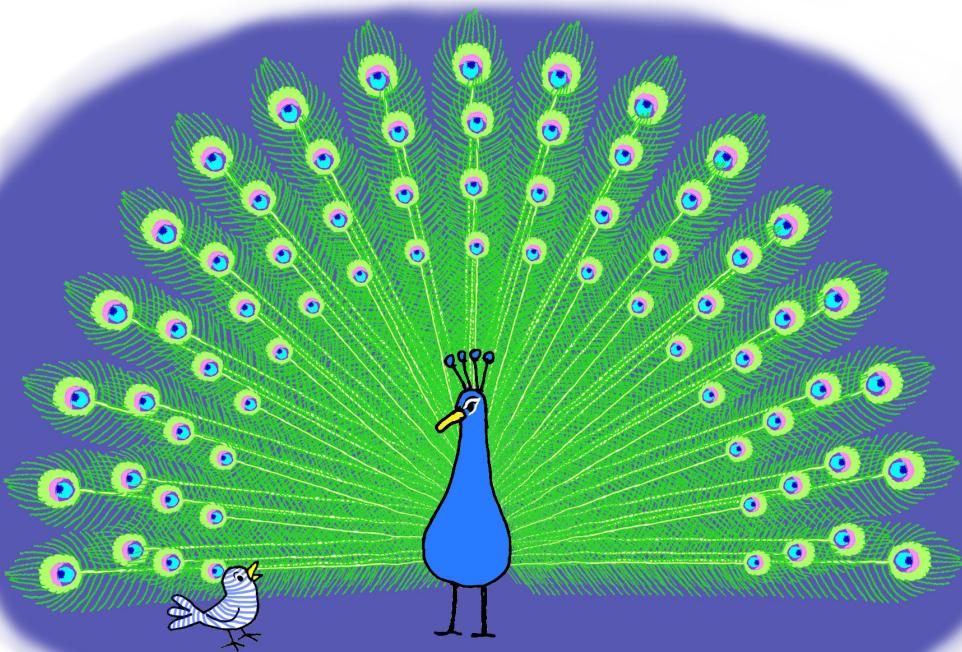
とても大きくて、美しい羽でした。

しまちゃんはびっくりしました。

「うわあ、きれいですね！」

「でしょう？」と言って、

クジャクは羽をたたみました。





「この羽は、きれいです。
でも、この羽を見ると、
みんながびっくりするから、
ちょっと恥ずかしい。」

でも、

これがクジヤクの羽です」

クジヤクは、言いました。

しまちゃんはため息をつきました。

「わたしだけ、しましまなんです。

小さいときは、このしましまが

大好きだつたけど…」

すると、クジヤクが言いました。

「ほら、ここにある花は、

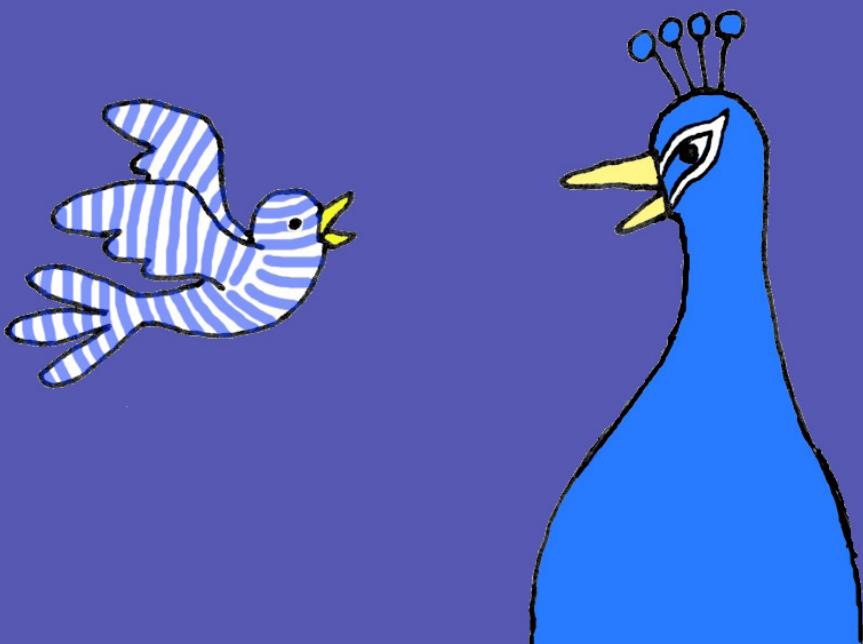
色も形もいろいろでしょう」

「ええ」

「鳥も同じ。」

色も形もいろいろだから、

おもしろいのです」





しまちゃんは、

朝までクジヤクと話して、

それから、

森へ帰りました。

森には、大きな木、小さな木、

いろいろな形の花：

みんな違つていました。

「みんな違う…。」

色も形も大きさもいろいろ…。

だから：

いいんだ！」

そんなとき、

ヘビが木に登つて いるのが
見えました。

木の上には、
鳥の赤ちゃんがいます。

でも、

お母さん鳥がいません。
危ない！

しまちゃんは、

急いで

ヘビに近づきました。



そして、クジヤクのよう^に、
自^じ_{ぶん}分^のの羽^はを広^{ひろ}げました！

ヘビは、

しまちゃんの

きれいな青^{あお}と白^{しろ}のしましまに

びっくりして、

木^きから落^{おち}ちてしましました。

そして、

どこかへ逃^にげていきました。

そこへ、

お母^{かあ}さん鳥^{とり}が帰^{かえ}つてきました。

「しまちゃん、ありがとう！」



ニュースを聞いて、

みんなが、

しまちゃんに会いにきました。

「しまちゃん、すごいね」

「しまちゃん、かっこいい」

しまちゃんは、自分の羽はねが
きれいなしましまでよかつた、
と思いました。

そして、自分のしましまが、
またちよつと好きになりました。



今、しまちゃんは、
仲間なかまと楽たのしく暮らくらしています。

みなさんも、

森もりへ行くことがあつたら、

しまちゃんを

探さがしてみてください。



さく なか お ゆきえ
作 中尾 雪絵

おおさかう げんざい
大阪生まれ、現在フランスのナント在住、
だいがく にほんご おし にほんご きょうし
ナント大学で日本語を教える日本語教師。
しゅみ たね そだ えんげい
趣味は、(種から育てる) ベランダ園芸と
ごりょうめぐ
御陵巡り。

しゅうまつ たの
週末の楽しみは、パン・オ・ショコラ
またはクロワッサン。



え ば ば きょうこ
絵 馬場恭子

いばらき けんしゅっしん
茨城県出身。

ドイツ、ヒルデスハイム市民大学と、
おうよう か がく けいじゅつだいがく にほんご
ハノーバー応用科学・芸術大学で日本語を
おし
教えていた。

しゅみ え
趣味は絵を描くことと、バードウォッチング。



へんしゅう めぐみ ありすえ じゅん
編集 石川芽生, 蟻末淳

とり
しましまの鳥

しょはんはっこう
2025年11月20日初版発行

さく なか お ゆきえ
作 中尾 雪絵

え ば ば きょうこ
絵 馬場恭子

はっこうじょ こくさいこうりゅうききん にほんぶんかかいかんにほんごじぎょうぶ
発行所 国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部



国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部